

【2018年度】

日時:平成31年2月23日(土) 午後1時30分～3時

場所:四條畷学園短期大学 清風学舎 202 教室

テーマ:「初年次導入教育としての教育ディベート」

講師:倉茂 好匡 先生 滋賀県立大学理事兼副学長(教育・学生支援担当)

【概要】

滋賀県立大学環境科学部環境生態学科では、1年生前期の初年次ゼミに「教育ディベート」を組織的に導入しています。それにより、学生は以下の3つの「到達目標」を達成しています。

1. 大学で学び、コミュニケーションするための基礎技術を習得する。
2. 論理的思考・判断能力・傾聴能力・プレゼンテーション能力を身につける。
3. 環境問題の多様性、複雑さ、議論の難しさを知る。

なぜ学生が成長できているのか、そのためにどのような授業運営がなされているのかを当日は実感していただきます。そのうえで、もし貴学の教育に「教育ディベート」を導入するなら、どのような論題を学生に与えればよいのか、グループワークで検討していただきます。

【FD 研修会アンケート集計結果(回収数46 教員35、職員11)】

項目内容 平均

1. 研修会の内容は分かりやすかったですか？ 平均値 4.80

(そう思わない 1-2-3-4-5 そう思う)

2. 研修会全体の満足度について、お答えください 平均値 4.78

(不満足 1-2-3-4-5 満足)

3. 研修会の内容は、活用できますか 平均値 4.30

(そう思わない 1-2-3-4-5 そう思う)

4. 活用できる言葉・印象に強く残っている内容について、具体的にお聞かせ下さい

【感想・意見の一部抜粋】

- ・事例を見せていただいたので、わかりやすかった。
- ・肯定と否定、両面から考えさせる。
- ・教材研究の重要性
- ・グループディスカッションを行っていましたが、肯定派と否定派に分かれて、さらに発表学習させる授業は、目からウロコで大変参考になりました。
- ・DVDを拝見し、学生さんたちの様子、発表など印象に残りました
- ・何よりも重要なこと「学生が興味を示す論題を考えだすこと」これは、本当に大切なことであると感じた

- ・「ディベートマッチ」看護の現場では、生命にかかわることから、科学的根拠に基づき、間違いのない基礎的な又画一的な思考となりがちですが、看護方法論に活用したいと思います
- ・論題の提示の仕方や興味を引く仕掛けなど。
- ・「学生が気づくまで待つ」のはなかなか難しく、つい教えてしまうので、待つ勇気が大切と思った
- ・「教えない事」「学生が気づくまで待つ」勇気「良かった点」「悪かった点」をしっかり伝える
- ・気づいた自分を認めてあけることの大切さを改めて大切にしたい
- ・「教えないこと」「失敗させること」→考えさせることに結びつけることができる
- ・ルーブリックの話が興味深く、時間が足りず残念でした
- ・自然に論理的に考えさせることを体得していること。これが最もすばらしい

5. 今後、FD研修会で取り上げて欲しい内容や分野がありましたらご記入をお願いします

【感想・意見の一部抜粋】

- ・アクティブラーニングについて
- ・教材研究について
- ・ルーブリックや研究について
- ・「LINE」の機能について
- ・具体的な授業の作り方
- ・プレゼンテーションの効果的な方法
- ・テクニカルライディング
- ・単一の教員だけでなく、複数の教員で取り組む授業例について

6. 今年度のFD活動について、ご意見(要望)ご感想などをお聞かせください

【感想・意見の一部抜粋】

- ・倉茂先生の研修を希望します
- ・新しい分野の講義をお願いしたい
- ・新任のため、FD活動をよく理解して進められるように教えていただきたい

「初年次導入教育としての教育ディベート」

滋賀県立大学環境科学部環境生態学科の教育実践を通して

【日時・場所】

2019年2月23日（土） 13:30-15:00

四條畷学園短期大学 清風学舎 202 教室

【概要】

滋賀県立大学環境科学部環境生態学科では、1年生前期の初年次ゼミに「教育ディベート」を組織的に導入しています。それにより、学生は以下の3つの「到達目標」を達成しています。

1. 大学で学び、コミュニケーションするための基礎技術を習得する。
2. 論理的思考・判断能力・傾聴能力・プレゼンテーション能力を身につける。
3. 環境問題の多様性、複雑さ、議論の難しさを知る。

なぜ学生が成長できているのか、そのためにどのような授業運営がなされているのかを当日は実感していただきます。そのうえで、もし貴学の教育に「教育ディベート」を導入するなら、どのような論題を学生に与えればよいのか、グループワークで検討していただきます。

【講師】

倉茂 好匡（くらしげ よしまさ） 先生

滋賀県立大学理事兼副学長（教育・学生支援担当）

【学歴】

1981年3月 北海道大学理学部地球物理学科卒業

1983年3月 北海道大学大学院理学研究科地球物理学専攻博士前期課程修了

1992年3月 北海道大学大学院理学研究科地球物理学専攻博士後期課程修了 学位 博士（理学）

【職歴】

1983年4月 学校法人成蹊学園 成蹊中学高等学校教諭（理科・地学および物理）

1992年6月 北海道大学大学院環境科学研究科 助手

1993 年 4 月 北海道大学大学院地球環境科学研究科 助手（組織変更に伴う配置換）

1998 年 10 月 滋賀県立大学環境科学部 助教授

2005 年 9 月 滋賀県立大学環境科学部 教授

2015 年 4 月 滋賀県立大学 理事兼副学長（教育・学生支援担当）

<主な活動実績>

滋賀県立大学環境科学部在籍中に、学部必修科目である「環境フィールドワークⅠ・Ⅱ」の改革、所属学科科目への「教育ディベート」「科学的和文作文法」科目の導入などを実施するのみならず、実際に教育実践を行った。

また、滋賀県立大学に教育実践支援室を立ち上げ、「授業の基本」「アクティブラーニング実践法」「ディプロマポリシーの作り方」「ルーブリック作成法」「視聴覚教材の効果的利用法」など、各種の研修会を本人自身が講師となって実施するとともに、授業運営に悩む先生方に対する「授業コンサルテーション」を実施している。

初年次導入教育としての教育ディベート

滋賀県立大学環境科学部環境生態学科の教育実践

本日はお忙しい中、研修会にご参加いただき誠にありがとうございます。
つきましては今後の運営の参考にするため、以下のアンケートにお答えいただければ幸いです。

1 ご自身について、お答えください

- ① 教員 ② 職員

2 研修会の内容は、わかりやすかったですか

- ① そう思わない ② あまりそう思わない ③ どちらでもない ④ ややそう思う ⑤ そう思う

3 研修会全体の満足度について、お答えください

- ① 不満足 ② 少し不満足 ③ どちらでもない ④ 少し満足 ⑤ 満足

4 研修会の内容は、活用できますか

- ① そう思わない ② あまりそう思わない ③ どちらでもない ④ ややそう思う ⑤ そう思う

5 活用できる言葉・印象に残っている内容について、具体的にお聞かせ下さい

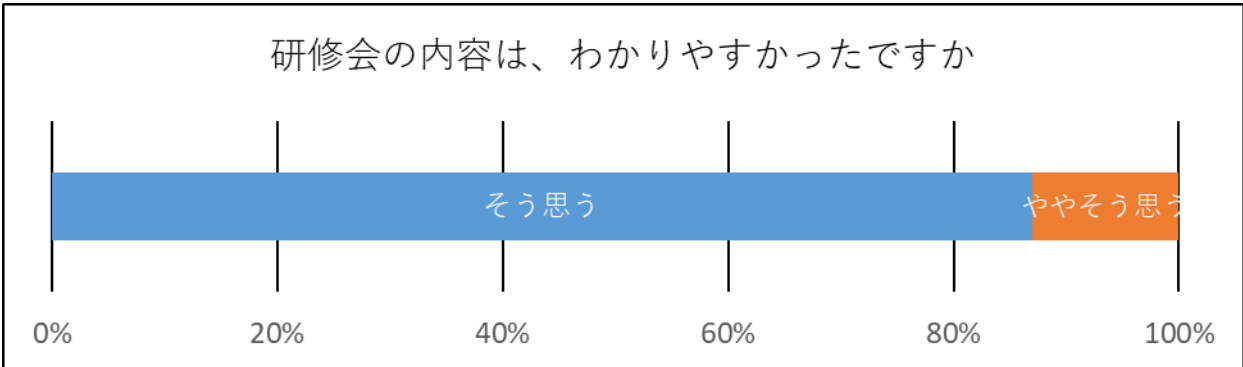
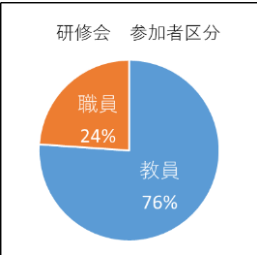
6 今後、FD研修会で取り上げて欲しい内容や分野がありましたらご記入をお願いします

7 今年度のFD活動について、ご意見(要望)ご感想などをお聞かせください

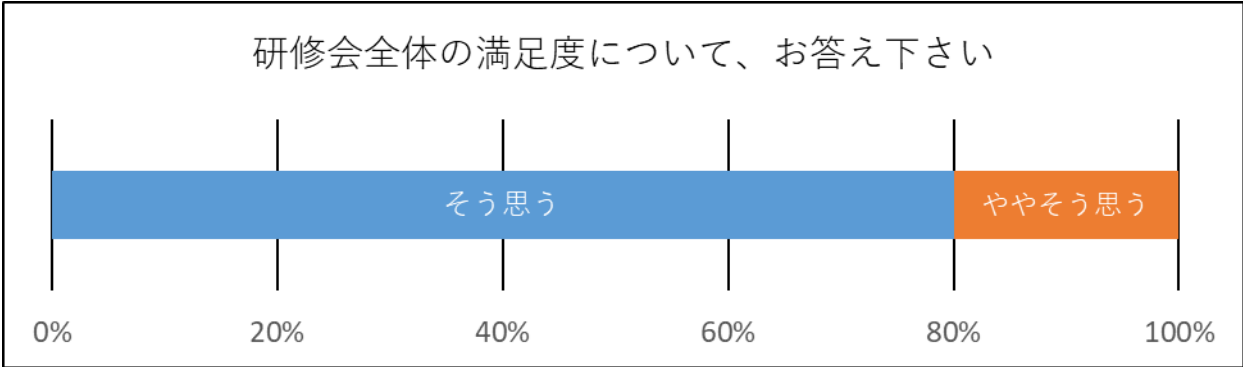
ご協力ありがとうございました

2018（平成 30）年度 FD 研修会アンケート集計結果

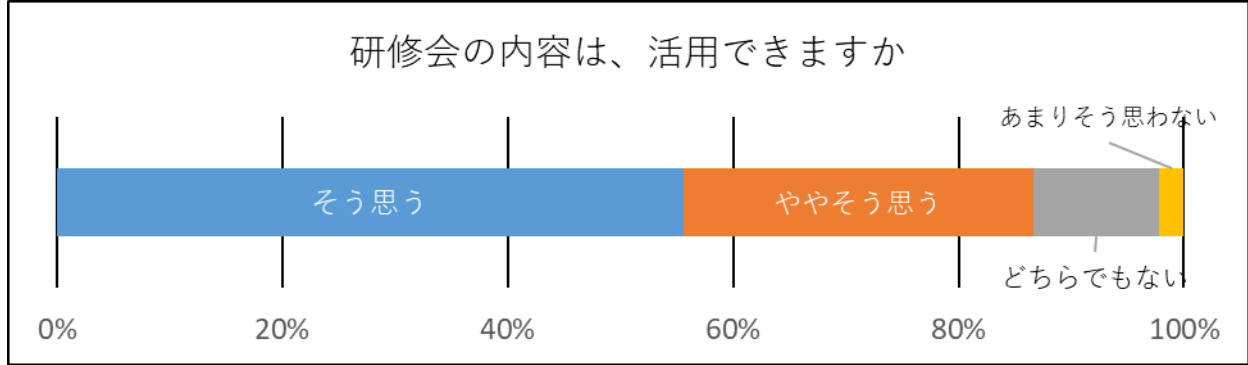
解析アンケート総数 : 46 件 (2017 年度 51 件 2016 年度 41 件)
 研修会参加人数 : 教員 35 名
 職員 11 名
 アンケート回収率 : 78.0%
 (研修会参加概数 59 名)



2016 年度平均値 4.56
 2017 年度平均値 4.73
 2018 年度平均値 4.87



2016 年度平均値 4.53
 2017 年度平均値 4.41
 2018 年度平均値 4.70



2016 年度『今後、A&D ラーニングを取り入れてみたいと思いますか?』平均値 4.53
 2017 年度『研修会の内容は、活用できますか』平均値 4.41
 2018 年度『研修会の内容は、活用できますか』平均値 4.30